



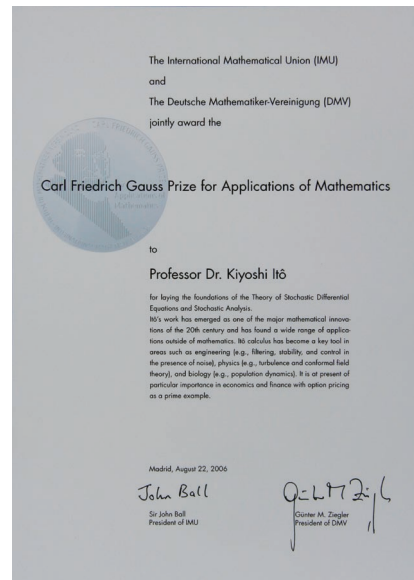
京大広報

No. 616

2006.10



伊藤 清名誉教授が受賞したガウス賞のメダルと賞状
—関連記事 本文2243ページ—



目次

〈大学の動き〉

- 部局長の交替等……………2236
- 全学教育シンポジウム「責任ある教育体制とは何か—京都大学における教育の将来像を問う—」を開催……………2236
- 博士学位授与式……………2237

〈部局の動き〉

- 京大関係病院長協議会定例総会を開催……………2238
- 寄附講座「味の素」食の未来戦略講座を新設……………2238
- 寄附講座「森川里海連環学(ベネッセコーポレーション)分野」を新設……………2239
- 寄附研究部門「比較認知発達(ベネッセコーポレーション)研究部門」を新設……………2239

〈寸言〉

- 「学徳兼備」 佐藤茂雄……………2240

〈随想〉

- 大学生とスポーツ 名誉教授 宮崎 昭……………2241

〈洛書〉

- 宇治虫の宇治ご案内 福田 猛……………2242

〈荣誉〉

- 伊藤 清名誉教授が第1回ガウス賞を受賞……………2243

〈話題〉

- 近畿地区国立大学体育大会の成績……………2244
- 全国七大学総合体育大会 まさかの4位……………2245
- シニアキャンパス2006を開催……………2246
- ジュニアキャンパス2006を開催……………2246
- 吉田南サークルフェスティバル2006を開催……………2247

〈訃報〉

- ……………2248

〈日誌〉

- ……………2251

〈お知らせ〉

- 生態学研究センター・オープンキャンパス……………2251
- フィールド科学教育研究センター上賀茂試験地「秋の一般公開自然観察会」……………2252
- 農学研究科シンポジウム(No Border Agric.)……………2252

〈公開講座〉

- 平成18年度エネルギー科学研究科公開講座……………2253
- 玉城嘉十郎教授記念公開学術講演会(第45回)……………2253
- 公開講演会「地球の気候の移り変わり」……………2254

〈編集後記〉

- ……………2254

京都大学広報委員会

<http://www.kyoto-u.ac.jp/>

大学の動き

部局長の交替等

医学研究科長・医学部長(再任)

成宮 周医学研究科教授(医学専攻高次脳科学講座担当(薬理学))が、10月1日付けで医学研究科長・医学部長に再任された。任期は平成20年9月30日まで。

全学教育シンポジウム「責任ある教育体制とは何か—京都大学における教育の将来像を問う—」を開催

9月14日(木)・15日(金)の両日、兵庫県立淡路夢舞台国際会議場において、教職員240人の参加を得て、「責任ある教育体制とは何か—京都大学における教育の将来像を問う—」をテーマとする全学教育シンポジウムを開催した。このシンポジウムは平成8年から開催され、今回が第10回目となる。

今回は、「教育改善のための体制が整備され、かつ機能しているか」という教育制度の根幹に関わる課題を取り上げるとともに、職員が担うべき教育支援の在り方など、全学的な教育体制をあらためて問い直すことにより、本学のあるべき教育の将来像を描くことを目指した。

シンポジウムは、高等教育研究開発推進機構長西田吾郎教授の趣旨説明の後、尾池和夫総長の基調講演、今回のシンポジウムのテーマに関する丸山正樹理事・副学長の基調報告があった。

その後、以下の4テーマに分かれ、基調報告を踏まえた分科会討論が行われた。

- ① 研究所・センターの教育参加に向けて
—教育は権利か義務か?—
- ② 理系教育における6年一貫教育の実現は?
—理系における基礎教育科目と専門科目の融合—
- ③ 文系教育におけるA群科目の意味は?
- ④ 職員の教育支援の在り方は?

2日目は、各分科会から報告があり、最後に全体討論が行われた。



尾池総長の基調講演



第1分科会の様子

今回のシンポジウムは、例年以上に研究所・センターの教員および全学の事務職員から多数の参加を得て、終始活発な議論や意見交換がなされ、盛会のうちに終了した。

(高等教育研究開発推進機構)

博士学位授与式

9月25日(月)午前10時30分から、時計台記念館国際交流ホールにおいて、尾池和夫総長、東山紘久理事・副学長(教育・学生担当)をはじめ、各研究科長・学舎長出席のもと、博士学位授与式が挙行された。

総長から、各授与者に対し学位記(7月24日付、9月25日付)が手渡された後、総長の式辞があり、

午前11時30分終了した。

各分野別内訳は次のとおりである。

総長式辞は総長室ホームページをご覧ください。

http://www.kyoto-u.ac.jp/uni_int/01_sou/060925_1.htm

学 位	平成18年7月			平成18年9月		
	課程博士	論文博士	計	課程博士	論文博士	計
博士(文学)	2	5	7	—	—	—
博士(教育学)	—	—	—	—	1	1
博士(法学)	—	—	—	—	3	3
博士(経済学)	3	3	6	3	—	3
博士(理学)	7	—	7	4	—	4
博士(医学)	2	4	6	4	2	6
博士(社会健康医学)	—	—	—	1	1	2
博士(薬学)	—	2	2	1	—	1
博士(工学)	3	5	8	26	3	29
博士(農学)	5	2	7	5	4	9
博士(人間・環境学)	1	—	1	3	—	3
博士(エネルギー科学)	1	—	1	8	1	9
博士(地域研究)	2	—	2	—	—	—
博士(情報学)	2	1	3	11	1	12
博士(生命科学)	2	—	2	2	—	2
博士(地球環境学)	—	—	—	1	—	1
計	30	22	52	69	16	85



式辞を述べる尾池総長

部局の動き

京大関係病院長協議会定例総会を開催

9月24日(日)に京大関係病院長協議会定例総会が、芝蘭会館を会場として関係病院145施設の病院長、本学関係者を含め約170人が参加して開催された。

地方では産婦人科医がいないところがあるなど、地域や診療分野における医師の偏在と不足が大きな社会問題となっていることから、「医師偏在(地域・診療)の現状と対策」を総会の全体テーマとし、講演・協議が行われた。

最初に、医学部附属病院総合臨床教育・研修センターの平出 敦教授が臨床研修から見た医師偏在を、福田和彦麻酔科長と藤井信吾産科婦人科長が診療科の現状について、また、西島直城丹後中央病院長および中川正久島根県立中央病院長からは僻地にお



開会の挨拶を行う内山病院長

る医療の現状と取組みや医師の確保対策について、それぞれ発表があり、その後、協議が行われた。

(医学部附属病院)

寄附講座「味の素」食の未来戦略講座」を新設

10月1日、大学院農学研究科に寄附講座「味の素」食の未来戦略講座」が設置された。今回設置された講座の概要は以下のとおり。

1. 部 局 名 大学院農学研究科
2. 名 称 「味の素」食の未来戦略講座
(Ajinomoto Integrative Research for Advanced Dieting)
3. 寄 附 者 味の素株式会社
4. 寄附金額 総額1億5千万円
5. 設置期間 平成18年10月1日
～平成21年9月30日
6. 担当教員 寄附講座教員(教授相当)
西山 徹
寄附講座助教授 野中 雅彦
寄附講座教員(助手相当)
伊藤 弘顕
山崎 英恵
7. 研究目的 現代社会において食は多くの面で深刻な問題をはらんでおり、その解決のためには食の概念に対する根本的な見直しと発想の転換が必要とされている。日本の食の未来戦略拠点を作成するために、食とそれに関連する分野の高度な研究、その食品開発

への応用研究および関連業界で活躍できる人材の教育を推進する。

8. 研究内容 時代を超えた食のありかたを生理学、新規な栄養学、動物行動科学、調理科学、脳科学、農学などの立場から理論的に捉えるとともに科学的に検証する。その研究成果に基づいて、今日顕在化するさまざまな食の問題に本質的な解決の指針を与え、世界の健康に対する日本モデルを構築することを目指す。さらに、その研究成果を学部および大学院の教育に反映させるとともに、産業界に対して新たな食品開発の技術基盤を提示する。
9. 研究課題 (1) 22世紀の食
(2) 行動と食品
(3) 京都と食品
(4) 世界の健康を目指す日本モデルの創出

寄附講座「森川里海連環学(ベネッセコーポレーション)分野」を新設

10月1日,大学院地球環境学堂に寄附講座「森川里海連環学(ベネッセコーポレーション)分野」が設置された。今回設置された講座の概要は以下のとおり。

- | | |
|---|---|
| <p>1. 部 局 名 大学院地球環境学堂</p> <p>2. 名 称 森川里海連環学(ベネッセコーポレーション)分野
(Interacting ecosystem management (Benesse Corporation))</p> <p>3. 寄 附 者 株式会社ベネッセコーポレーション</p> <p>4. 寄附金額 総額9千万円</p> <p>5. 設置期間 平成18年10月1日
～平成21年9月30日</p> <p>6. 担当教員 寄附講座教授 夏原 由博
寄附講座助手 今西亜友美</p> <p>7. 研究目的 自然環境の健全度診断から再生シナリオに関する,階層的,統合的な学際研究を推進し,森川里海連環学という,環境教育分野を含む新しい統合的な産官学民連携学術研究分野の形成を目指す。</p> | <p>8. 研究内容 フィールド調査や既存研究成果を用いた,森川里海連環機構からみた自然環境健全度診断と指標群の開発,自然環境の保全と再生に向けた分析評価と自然再生に関する指針,次世代環境教育コンテンツの作成,および自然再生を担う産官学民連携学術研究分野の形成</p> <p>9. 研究課題 森林,水田・湿地,海・海浜とそれをつなぐ河川それぞれについて,生態系サービスの定量化を行い,森川里海の連環としてとらえるモデルを開発し,30-50年間の気候変動のシナリオの下での変化の予測と再生のための評価を行う。</p> |
|---|---|

寄附研究部門「比較認知発達(ベネッセコーポレーション)研究部門」を新設

10月1日,霊長類研究所に寄附研究部門「比較認知発達(ベネッセコーポレーション)研究部門」が設置された。今回設置された研究部門の概要は以下のとおり。

- | | |
|---|--|
| <p>1. 部 局 名 霊長類研究所</p> <p>2. 名 称 比較認知発達(ベネッセコーポレーション)研究部門
(Comparative Study of Cognitive Development (Benesse Corporation))</p> <p>3. 寄 附 者 株式会社ベネッセコーポレーション</p> <p>4. 寄附金額 総額1億5千万円</p> <p>5. 設置期間 平成18年10月1日
～平成23年9月30日</p> <p>6. 担当教員 寄附研究部門助教授 佐藤 弥
寄附研究部門助手 林 美里</p> <p>7. 研究目的 乳幼児期の発達,子育て,家族に関する人間とそれ以外の霊長類の比較研究</p> | <p>8. 研究内容 言語や道具を操る知性や共感し模倣する機能が乳幼児期にいつどのように発達するかを検討しつつ,親子のコミュニケーションやインタラクション,子育て行動,教育と学習,コミュニティの役割などについて,人間を含めた霊長類における比較研究を行う。</p> <p>9. 研究課題 人間とそれ以外の霊長類における認知機能の発達を基盤に,親子関係や家族やコミュニティについての比較研究を推進し,「人間とは何か」という人間および人間性の進化的基盤について探る。</p> |
|---|--|

寸言

「学徳兼備」

佐藤 茂雄



きっと社長職にあるからなのであろう現在私は有信会の役員をおおせつかっているが、法学部卒の会合はたいへん敷居が高くて落ち着かない。他の集まりでも自己紹介をしなければならない場がたびたびあるが、ボート部卒業です、と自己紹介することにしている。大学時代は瀬田川にあるボート部の合宿所にこもりきりだった。法律を学んだとは恥ずかしくて言えない。

万幸いい加減で、就職活動もあちこちの会社から内定を取り付けてはお断りし、結局終盤になってトヨタか京阪かとの選択を迫られた。先に京阪の役員が親元に勧誘に来たというので、そちらに決めた。超グローバルか超ドメスティックかという選択をしたわけで、今考えると人間の運命とはまことに恐ろしいものだ、とつくづく思う。

当節こんな目標意識の低い若者は京大にはいまい。いては困る。京大生ならきちんと目標を持ち、この国のためにお役に立つ人材を目指してもらいたい。私も明確な目標を持って貴重な学園生活を送りたかったものだが、もう青春は戻らない。そこで、法律をろくに学ばずボートも全国制覇できずに京大で青春を過ごした経験から、そして現在企業を経営する立場から、反省を込めて少し意味のある言葉を吐いてみたい。

地域密着型の鉄道事業は不景気だといって地元から離れるわけにはいかず、わが社は平成不況にもがき苦しんできた。厳しい経営改革を断行するに当たって私が戒めとしたのは、在学中に平澤 興総長から教わった言葉だ。ある時平澤総長はボートの練習に明け暮れるボート部員に対して、「学徳兼備」という賛辞を呈した。学問だけでもダメ、遊びやスポーツだけでもダメ、その点ボート部の諸君は二つを兼ね備えている、とマスコミの取材に答えてくれた。

明らかにそれは過大なるお世辞であったが、京大生の欠点を指摘、京大生はかくあるのが望ましいという理想を述べたものだと私は思った。

社長に就任した時に、「学徳兼備」という言葉が浮かんだ。会社再生には自己犠牲を伴う企業改革が欠かせないが、そのためには各セクションで進路を誤らない的確な判断と結束力がことのほか重要だ。それを可能にするリーダーの資質はスペシャリストよりジェネラリスト。ジェネラリストの発掘と登用を思ったとき「学徳兼備」が浮かんだ。平澤総長の「学徳兼備」はジェネラリストのことだと気づいたのである。京大生は専門領域でよく勉強し実に優秀、他大学の学生と比べても抜きん出た実力を持っていると思うが、昔も今も世間常識とか一般教養からは縁遠い学生が多いのが特長だ。京大を出て企業人になってもこうした短所はついて回り、コミュニケーションが下手な人が多い。独創力が備わっているから組織体の部分で壺にはまったとき大きな力を発揮することがある。だが、これでもって全体を統率する力量があるのかというとそうはならない。細密な部分にとらわれ、全体が見えないからだ。

大学までは優秀でも、実社会では能力を発揮できないまま埋没してしまっただけではもったいない。大学受験までスペシャリストとして歩んできたのなら、大学ではジェネラリストとしての修練を積んでもらいたいものだ。そのためには、何かクラブ活動することだ。学内外の友人がたくさんできる。古典を読むがいい。偉人に出会える。智恵も学べる。この世は実に優秀な人、個性的で愉快な人、優しい人、弱い人などで成り立っていることがわかれば、謙虚になり、大局で判断できる幅の広い人間へと成長する。

「学徳兼備」。どうか日々これを意識し、実践してもらいたい。お断りしておくが、かく申す私はスペシャリストでもなければジェネラリストでもない。経歴でおわかりのように単なる浮遊物である。だけど、浮遊物だからこそ周囲がよくわかるのも確かだ。

(さとう しげたか 京阪電気鉄道株式会社取締役社長、昭和40年法学部卒)

随想

大学生とスポーツ

名誉教授 宮崎 昭

京大広報の原稿は内容に不適切な表現が些かもないうように、1日ばかりで精読に掛けられる。幾冊もの辞書が既刊の広報のファイルとともに委員の熟読を助ける。何方の原稿でも容赦なく朱を入れ、一言半句が入念に照合されるのは公的な刊行物ゆえである。委員を務めた経験から、随想欄に何かをと言われると正直言って困った。しかし逃げるわけにいかないのはわかっていた。

10月が掲載予定と聞くと、例年、国立七大学総合体育大会の記事が載る号だと思い出した。体育会と学生部の仕事をしたので、七大戦のお世話を計6回させて頂いていた。いつも開会式で七大学の学長が熱くスポーツを語られた。しかし普段、学長を知る由もない学生達は、「年1回、今日だけ学長がスポーツ好きになれる」などと言っていた。それほどに大学は知育の場だったのも事実である。

しかし体育会系の学生はそんなことにはお構いなく、それぞれに好きなスポーツを選び部活に命を懸けて頑張っている。かく言う私も入学と同時にスキー競技部に入り、クロスカントリー種目を本格的にやろうと燃えた。

雪のないシーズンオフには部室のある西部構内から毎日のように大文字山へ駆け上がった。ときには比叡山蛇ヶ池を目指し、雲母坂(きららざか)を走ったものだ。この競技はスキーを付けて雪上を15～50km滑走するが、キックとともにストックの衝撃放しで推進するので、脚力とともに腕力が求められる。そのため西部南棟のボックスと自宅の柱に括った自転車の古チューブを時間があれば引っ張って、上半身を鍛えた。夢中になりすぎると授業をサボってまで練習をした。唯一の愛読書が中島 敦の「名人伝」だから、凝りようは尋常でなかった。

こんな有様では学業成績が良い筈がない。とくに12月以降、雪のあるところを転々とするので、後期試験は悲



愴だ。そんな私を見兼ねてか、コピー機のない中、講義の要点をカーボン紙で写して渡してくれる親切な友に支えられ、それを一夜漬けて、4年間で何とか卒業できた。

3年生のとき国体の京都府代表に選ばれた。日程が後期試験と重なるので、追試を願い出ようと教室へのこのこ行くと、「君はスキーと勉強のいずれが大事なのか」ときつく叱られた。それでもしたたかに、「今の僕にはスキーです」と言って呆れられた。院入試に受かると、「なぜお前みたいな奴が院に合格できたのだ」と不満げに言う同級生さえいた。

こんな4年間を過ごしても、停年退職まで何とか大学に勤められたのはスポーツを通して身に付けた何かが役立ったと言うしかない。年間40日ほどの合宿と試合への遠征では学年も学部も違う部員50名ほどが寝食を共に集団生活をしたので色んな経験ができた。体力はもとより気力、集中力が体の中で育ったようだ。どんなことにも音をあげず、目標に向かって全力で遣り逃げようとする、今どき流行らぬ根性が身に付いた。いつの間にか、短時間に要領よく仕事が出来るようにもなっていた。

概ね爽やかな人間関係が築けたのもスポーツのお蔭だ。試合中、死闘を繰り返しても、済めば互いの健闘をたたえ仲良くなるのは、今年の夏の甲子園決勝を投げ合った2人のエースのその後の報道でよくわかる。学生部にて団交した学生と、ときに西部食堂ルネで顔を合わせると、向き合って談笑しながら食事もした。

停年退職後、放送大学京都学習センターに勤めているが、その視聴学習室で、かつて私を相手に18時間団交を仕切った学生の1人が勉強していた。なんと放送大学教養学部の学生になっていたのだ。そこで、「お茶でもいかが」と所長室に招くと、「宮崎さんがここに居るのは知っていた。元気に停年になってよかったね」と言う。そこで、「君が居なければもっと元気だった筈」と応じると大笑いになった。大学におけるスポーツは人格形成の一つの要素だと、年とともに強く思うようになっている。

(みやざき あきら 元農学研究科教授 平成13年退官、専門は畜産資源学)

洛書

宇治虫の宇治ご案内

福田 猛

化学研究所は、2006年10月4日をもって設立満80年を迎えた。(これを記念する講演・展示会の開催を時計台記念館で11月2日(木)に実施、歴史展示会を10月3日(火)より約1ヶ月の予定で開催。)



当初は高槻市にあった研究所が宇治に移転してからすでに39年目になる。筆者は修士課程の学生として、研究所とともに宇治に移り、博士課程修了の後、縁あって研究所に職を奉じ、そのまま今日に至る。宇治市民としても30年を超える。学生時代、吉田の友人からよく「ウジムシ」とからかわれ、「勉強の虫の虫やね、褒めてくれてありがとう」などとやり合ったが、もはや本物の「宇治虫」である。

黄檗山と三室戸寺の間の羽戸山という所に18年ほど前に移り住んだ。近隣に菟道という地名があり、わが家の直ぐ上の丘に府立菟道高校がある。大分離れて、平等院(世界文化遺産)を校区とする菟道小学校というのものもある。これらはすべて「トドウ」と読むが、この固い響きは宇治という古い土地に似つかわしくないと考えた。ひょっとしたら、昔はこれを「兎の路」、つまり「うじ」と読んだのではないかと思ったりした。そのうち、平等院の川向かいにある宇治神社の祭神が菟道稚郎子であり、これを「うじのわきいらつこ」と読むことを知り、我が意を得た覚えがある。上記の菟道小学校は明治6年に開校され、当初は宇治小学校と称したが、明治11年、時の府知事榎村正直氏が「菟道」に改称した(同校URL)。菟道稚郎子から採ったらしいが、読み方も、(当時としては)近代的な響きの「トドウ」に変えたものと思われる。地名の菟道もこれに習ったか、あるいは明治以降の命名か(菟道高校はずっと新しく、昭和60年の創立)。筆者は「うじ」と読むのが断然よいと思う。

では、現在の宇治を意味する「うじ」の呼び名はどこから来たか? 漢字の「宇治」が意味をもたないとす

ると、漢字伝来以前、大和言葉の「うじ」は「菟道」を意味したか。だとすると、菟道は宇治より由緒正しい。ただ、兎の道ではいかにも人里離れた感がある。地域の文化度が上がるにつれ、菟道を嫌って宇治が広まったか。

話は飛躍するが、記紀によると菟道稚郎子は応神天皇と宇治木幡の豪族の娘、宮主宅媛(みやぬしやかわえひめ)の間に生まれた俊才の誉れ高い皇子で、異母兄に大鷦鷯(おおささぎ)皇子などがいるにもかかわらず、応神天皇から皇太子に任命される。天皇の死後、稚郎子は年長の大鷦鷯が皇位を継ぐべきだとし、大鷦鷯は父の遺志に従うべきだと主張して、互いに譲り合うこと3年、悩んだ稚郎子は自らの死をもって決着をつける。こうして兄が皇位を継ぎ、仁徳天皇として長期の善政を施したとされる。以上は美談として語り継がれ、宇治神社の背後の宇治上神社神殿(世界文化遺産)には、応神を挟んで仁徳と稚郎子の3座が仲良く祀られている。

しかし、である。血族間でもはげしく覇権を争った時代に、この皇継話は不自然である。金谷信之氏は、稚郎子は大鷦鷯に殺されたとしている(関西外国語大学研究論集第69号)。同氏はまた、暗闇祭りととも呼ばれる宇治の奇祭「縣祭り」(あがたまつり; 6月5日深夜~6日未明)は、大阪河内の大鷦鷯の手勢が宇治に住む稚郎子を暗殺する場面を再現するものであるとしている。この祭りが、主に河内の講社の人々の奉仕によること、深夜の梵天渡御が宇治神社の御旅所と縣神社を往復することなどがその根拠のようである。林屋辰三郎氏は、縣神社の祭神を前記の宮主宅媛とする。だとすると、縣祭りは稚郎子とその生母の神霊の合体式となる。これらの説は興味深い、真偽の程は不明である。

それはともかく、木花咲耶姫(このはなさくやひめ)が祭神であるとする縣神社側と講社側(縣祭り奉賛会)の対立が深刻化し、ここ数年は梵天渡御の分離開催を招いている。伝統ある祭りの形そのものが変わってしまうのはいかにも残念である。

(ふくだ たけし 化学研究所教授、専門は高分子化学)

栄誉

伊藤 清名誉教授が第1回ガウス賞を受賞

ガウス賞は、数学におけるノーベル賞といわれるフィールズ賞および計算機科学への数学的貢献に対するネヴァリンナ賞と並ぶ賞として、国際数学連合により新たに創設されたもので、その第1回受賞者の栄誉を伊藤清名誉教授が受けられました。8月22日(火)マドリードにおける授賞式には、ご高齢のためご家族が代理出席されましたが、国際数学連合総裁ジョン・ポール卿は来日して直接伝達したいとの意向を表明され、9月14日(木)に本学の時計台記念館において伝達式・記念講演会が開催されました。

以下に同名誉教授の業績、略歴等を紹介いたします。

ガウス賞は、数学以外への意義深い実践的応用が認められる傑出した数学的貢献あるいは数学外の分野への数学的方法の応用をもたらした革新的な業績に対して授与される賞であり、授賞理由は、「伊藤



博士の業績は20世紀における主要な数学的革新のひとつであり、数学外に広範な応用を獲得したものである。伊藤解析は、工学(例えば、ノイズのある場合のフィルタリング・安定性・制御)、物理学(例えば、乱流、共形場理論)、生物学(例えば、集団遺伝学)などにおいて必須の道具となるとともに、現在ではオプション価格を始めとして経済学およびファイナンスにおいてもとりわけ重要なものとなっている」としている。

戦争中で数学専門誌の発行も思うに委せなかった時代に、数学者たちがやむを得ず自らガリ版印刷して回覧していた雑誌『全国紙上数学談話会』の224号(昭和17年11月20日発行)に「Markoff 過程ヲ定メル微分方程式」が掲載されたとき、授賞理由に挙げられたような発展と応用の礎は築かれていた。その1942(昭和17)年から今年で既に64年経ち、さまざまな分野へ応用されるまでには長い時間を要してい

る。しかし、数学としての本質を追究し切ったことが、本質的で広範な応用をもたらし続けていることは感慨深いものがある。

伊藤 清名誉教授は、昭和13年東京帝国大学理学部数学科を卒業、大蔵省銀行局、内閣統計局統計官を経て、同18年名古屋帝国大学理学部助教授、同27年京都大学理学部教授、同41年同大学数理解析研究所教授、同42年デンマーク王国オルフス大学教授、同44年アメリカ合衆国コーネル大学教授、同50年京都大学数理解析研究所に再び着任され、翌年から数理解析研究所所長、同54年退官後、同60年まで学習院大学教授を務められ、同60年8月からの1年間はアメリカ合衆国ミネアポリス大学数学研究所に招聘された。また、昭和53年から同61年まで日本学術会議会員、平成2年より学士院会員を務められている。

伊藤名誉教授は、昭和52年に朝日賞、同53年に学士院賞恩賜賞、同60年に藤原賞、同62年にウルフ賞、平成10年に京都賞を受賞され、またフランス科学院、アメリカ合衆国ナショナル・アカデミー等の外国人会員に選ばれ、パリ第6大学、チューリッヒ工科大学、ウォーリック大学より名誉博士号が授与され、平成15年には文化功労者に選ばれた。

(数理解析研究所)

話題

近畿地区国立大学体育大会の成績

京都教育大学が当番大学となり開催された第44回近畿地区国立大学体育大会は、5月7日(日)の「ラグビー」から8月24日(木)の「ソフトテニス」まで、17競技種目において熱戦が展開された。

本学は、「柔道(男子)」「弓道(男子)」「ソフトテニス

(女子)」の種目で優勝し、各競技において実力を発揮し総合成績では、男子が3位、女子は5位であった。なお、本大会の成績は以下のとおりである。

(学生部)

得点表(女子)

種目NO	種目別	大学名											
		滋賀大	京都大	京教大	工織大	大阪大	大外大	大教大	神戸大	兵教大	奈教大	奈女大	和 大
1	陸上競技			10				7	5		4		
2	水泳		7			5	4	10					
3	テニス		4			7		5	10				
4	ソフトテニス		10				7	4.5					4.5
5	バスケットボール			10				7	4		5		
6	バレーボール			7				10	4.5		4.5		
7	サッカー			4.5				10		4.5			7
8	卓球					7		5	4			10	
9	バドミントン		5			4		7	10				
10	剣道					4.5		10	4.5			7	
11	体操競技					7		10	5				
12	ハンドボール			7				10	5	4			
13	弓道			7	10		5			4			
合計得点		0	26	45.5	10	34.5	16	95.5	52	12.5	13.5	17	11.5
総合順位		12	5	3	11	4	7	1	2	9	8	6	10

得点表(男子)

種目NO	種目別	大学名											
		滋賀大	京都大	京教大	工織大	大阪大	大外大	大教大	神戸大	兵教大	奈教大	和 大	
1	陸上競技		4			5		10	7				
2	水泳		5			7		10	4				
3	野球			10					4		5	7	
4	軟式野球	10						7	5	4			
5	テニス		5	4				10	7				
6	ソフトテニス		7			10		4.5	4.5				
7	バスケットボール	4				5		7	10				
8	バレーボール	4.5				4.5		7	10				
9	サッカー	4	5	10				7					
10	ラグビー	4.5				4.5		10	7				
11	卓球		7			5		4	10				
12	バドミントン				5	4		10	7				
13	柔道	5	10						7				
14	剣道		7			4.5		10	4.5				
15	体操競技			10				7				5	
16	ハンドボール		7			4		10	5				
17	弓道	4	10		7				5				
合計得点		36	67	34	12	53.5	0	113.5	97	4	5	12	
総合順位		5	3	6	7	4	11	1	2	10	9	7	

全国七大学総合体育大会 まさかの4位

第45回全国七大学総合体育大会が本年7月15日(土)の開会式を挟み、昨年12月11日(日)の「アイスホッケー」を皮切りに9月16日(土)の閉会式まで、27競技種目にわたり大阪大学の主管で開催された。

本学は順調なスタートを見せ、惜しくも3位に終わった昨年度の雪辱に臨んだ本大会ではあったが、残念ながらまさかの4位に終わった。

(学生部)

	北海道大学		東北大学		東京大学		名古屋大学		京都大学		大阪大学		九州大学		
	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	
アイスホッケー	1	10	3	6	4	0 ^{*1}	5	4	6	3	7	2	2	8	
スキー	-	-	-	-	2	8	4	4	3	6	1	10	5	3	
航空(グライダー)	6	3	3	6	7	2	1	10	5	0 ^{*2}	4	4	2	8	
馬術	5	2	2	6	6	1	4	3	3	4	-	-	1	8	
柔道	7	1.5	1	10	2	8	3	5	7	1.5	5	3	3	5	
硬式テニス	男子	6	2	3	6	7	1	1	10	4	4	2	8	5	3
	女子	2	8	5	3	3	6	4	4	6	2	1	10	7	1
ヨット	4	4	5	3	6	2	-	- ^{*3}	2	8	3	6	1	10	
水泳	男子	3	6	5	3	6	2	4	4	1	10	2	8	7	1
	女子	1	10	3	6	7	1	4	4	5	3	2	8	6	2
空手道	5	3	4	4	2	8	7	1	3	6	1	10	6	2	
少林寺拳法	4	4	6	2	3	6	7	1	2	8	1	10	5	3	
剣道	男子	7	1	5	3	4	4	6	2	3	6	1	10	2	8
	女子	4	4	3	6	5	3	2	8	7	1	6	2	1	10
バスケットボール	男子	2	8	5	3	7	1	1	10	4	4	3	6	6	2
	女子	2	8	1	10	7	1	3	6	6	2	4	4	5	3
ハンドボール	3	6	4	4	5	3	1	10	2	8	6	2	7	1	
陸上競技	男子	5	3	3	6	1	10	6	2	2	8	4	4	7	1
	女子	3	6	6	2	4	4	1	10	2	8	7	1	5	3
フェンシング	4	3	2	6	6	1	-	-	1	8	3	4	5	2	
バドミントン	男子	3	6	2	8	5	3	4	4	6	2	7	1	1	10
	女子	1	10	4	4	5	3	2	8	3	6	7	1	6	2
ラクロス	男子	5	3	6	2	1	10	2	8	-	-	3	6	4	4
	女子	3	6	7	1	2	8	6	2	1	10	5	3	4	4
準硬式野球	4	4	3	6	5	3	2	8	7	1	1	10	6	2	
バレーボール	男子	1	10	7	1	3	6	4	4	2	8	6	2	5	3
	女子	2	8	4	4	7	1	3	6	6	2	5	3	1	10
硬式野球	2	8	6	2	-	-	1	10	5	3	4	4	3	6	
弓道	男子	1	10	2	8	3	6	6	2	4	4	5	3	7	1
	女子	1	10	3	6	2	8	6	2	5	3	4	4	7	1
自動車	3	6	2	8	7	1	4	4	5	3	1	10	6	2	
ソフトテニス	男子	3	6	7	1	6	2	5	3	4	4	1	10	2	8
	女子	2	8	7	1	5	3	3	6	1	10	4	4	6	2
アーチェリー	7	1	4	4	6	2	3	6	2	8	1	10	5	3	
ゴルフ	6	2	5	3	3	6	1	10	2	8	4	4	-	-	
体操	3	6	7	1	6	2	1	10	4	4	2	8	5	3	
卓球	男子	4	4	2	8	6	2	7	1	1	10	3	6	5	3
	女子	3	6	5	3	-	-	1	10	6	2	2	8	4	4
総合得点	206.5		166		138		202		188.5		209		152		
総合順位	2		5		7		3		4		1		6		

※1 東大のアイスホッケーの記録は、エントリー用紙の紛失・提出期限遅れのため総合順位での当該記録は抹消され0点とする。(不参加扱い)

※2 京大の航空(グライダー)の記録は、エントリー用紙の提出期限遅れのため総合順位での当該記録は抹消され0点とする。(不参加扱い)

※3 名大のヨットは、オープン参加として扱い、総合順位には加味しない。(不参加扱い)

シニアキャンパス2006を開催

2年目を迎えた「シニアキャンパス」が9月19日(火)～22日(金)の日程で開催され、北は北海道から南は沖縄まで、全国から46歳～83歳の方々45人が参加した。

今回は、「交響する身体－ひと・もの・自然の学びを編みなおす－」をテーマにしたもので、1日目は、時計台記念館で開催され、尾池和夫総長の「歓迎の挨拶」を皮切りに、オープニング講義、サロントークのほか、記念写真撮影や懇親会が行われた。

2日目の午前には、法経本館の講義室で「図書館の活用」、「高齢者の健康」に関する講義、午後には3グループに分かれて附属図書館、医学部附属病院および円通寺でフィールド学習が行われた。また、その夕刻には、宿泊所の京都ロイヤルホテルで受講者の学びを語る催しが行われた。

3日目の午前には、「京都議定書」や「太陽面爆発」に関する講義、午後には、3グループに分かれて、花山天文台、上賀茂試験地および総合博物館でそれぞれフィールド学習が行われた。また、受講者は、夕刻の「未来フォーラム」も聴講した。

最終日の午前には、受講者同士が、シニアキャンパスで学んだことやこれからの学びを小グループで討議する「ゼミナール」、東山紘久理事・副学長によ



開講式で挨拶する尾池総長

る「カウンセリングと宗教」と題する特別講義が行われた。修了式では、4日間の全課程を修了された受講者一人ひとりに東山理事・副学長から修了証書が手渡された。

また、午後には、今回新に企画された自由参加の「見どころツアー」にほとんどの受講者が参加され、「学内施設見学コース」と「学外散策コース」の2班に分かれて、時計台記念館歴史展示室・免震装置、尊攘堂、清風荘、湯川記念館や学外の三高の歌碑(吉田山)、吉田神社、真如堂などを見学した。

シニアキャンパスは大変好評で、受講者から、来年も是非参加したいとの声が多く寄せられている。

(学生部)

ジュニアキャンパス2006を開催

「非常識の魔法－千年先の時空－」をテーマに、9月30日(土)～10月1日(日)の2日間の日程でジュニアキャンパスが開催された。

ジュニアキャンパスは今年が2回目で、昨年引

き続き京都市教育委員会との共催で開催され、中学生241人、保護者等63人が参加した。

京都市および近郊の中学生やその保護者等を対象にしたジュニアキャンパスには、近畿地区のみなら

ず静岡や岡山からの参加者があった。

1日目の午前には、開講式(東山紘久理事・副学長および門川大作京都市教育長の挨拶)とオリエンテーションの後、中学生は霊長類研究所長の松沢哲郎教授による「文化を伝えるチンパンジー」と題した講義を、保護者は東山理事・副学長による「子供の創造性を伸ばす子育て」の講演をそれぞれ傾聴した。

1日目の午後と2日目は、吉田キャンパス、宇治キャンパスおよび花山天文台において、少人数制による28講座のゼミが行われた。

また、2日目の午後には、ゼミと並行して、今回新たに企画された「キャンパスミニツアー」が行われ、参加者は、時計台記念館免震装置、尊攘堂および湯川記念館を見学した。

参加した中学生からは、「難しかったが楽しかつ



「昆虫ってロボットになるの?」のゼミ風景

た」,「今まで興味がなかったが、自分でもっと調べてみたい」,「湯川先生の記念室が見られてよかった」などの感想が寄せられた。

(学生部)

吉田南サークルフェスティバル2006を開催

9月29日(金)午後3時より吉田南正門前広場において吉田南教室使用サークル連盟主催、高等教育研究開発推進機構および共通教育推進部後援による「吉田南サークルフェスティバル2006」が開催された。

会場の吉田南総合館北棟のアーチ下には特設ステージが設けられ、近くには飲み物などをサービスするテントが置かれた。

このサークルフェスティバルは、吉田南構内の教室を練習・活動拠点とする音楽などのサークルが一同に会して日頃の練習の成果を披露する場として、昨年より始まったもので、多彩なプログラムのもと、各サークルは熱のこもった演技や妙技を披露して多数の参加者を沸かせていた。夜が更けてくるにつれ



パフォーマンスを見る学生たち

次第に盛り上がりを見せ、集まった観客は歓談しながらゆったりとステージを楽しんでいた。

(高等教育研究開発推進機構)

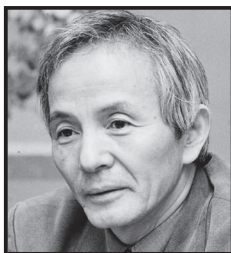
訃報

このたび、^{よねやまとしなお}米山俊直名誉教授、^{なかにしこういちろう}中西浩一郎名誉教授、^{しぶや いわお}渋谷 巖名誉教授、^{かめい とよひさ}亀井豊永理学研究科助手、^{いいぬま}飯沼 馨名誉教授、^{かおる たなか たかし}田中 孝名誉教授が逝去されました。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

以下に各氏の略歴、業績等を紹介します。

米山 俊直 名誉教授



米山俊直先生は、3月9日逝去された。享年75。

先生は、昭和29年三重大学農学部農学科を卒業、同31年京都大学大学院農学研究科修士課程を修了、同年同研究科博士課程に進学の後、イリノイ大学社会人類学部大学院研究助手を経て、同36年同研究科博士課程を終え、同年京都大学農学部助手、同40年甲南大学文学部助教授、同46年京都大学教養部助教授、同56年同教授、平成4年総合人間学部教授を歴任された。平成6年停年退官され、京都大学名誉教授の称号を受けられた。本学退官後は、平成6年放送大学教授、同9年大手前女子大学学長に就任し、同女子大学を共学、2学部制に改組拡充するなど大学教育に尽力された。

先生は、日本における文化人類学の先駆的研究者の一人として、同分野の発展と普及に努め、多数の

研究者を指導・育成するとともに、地域文化の振興にも多大の貢献を果たされた。また、多年にわたりアフリカのタンザニア、マリ、ザイール(現コンゴ)における社会・文化の調査に従事され、日本のアフリカ研究の発展に尽くされた。

他方、大都市の祭礼に関する文化人類学的研究で、都市人類学を体系的に構築した業績により、昭和61年日本生活学会今和次郎賞を受賞された。更に、「小盆地宇宙論」をはじめとする独自の文明論を展開され、平成5年京都新聞文化賞を授与された。

先生は、日本学術会議第16期第1部会員に選出されたのはじめ、日本民族学会、日本民俗学会、日本アフリカ学会、比較文明学会、日本生活学会等の会員として、学術の発展に寄与された。こうした文化人類学の研究と学術の進歩への貢献に対して平成11年紫綬褒章が授与された。

(大学院人間・環境学研究科)

中西浩一郎 名誉教授



中西浩一郎先生は、5月19日逝去された。享年74。

先生は、昭和34年京都大学大学院工学研究科工業化学専攻博士課程単位取得認定退学、近畿大学理工学部講師、信州大学工学部助教授を経て、同62年京都大学工学部教授に就任され、分子工学専攻応用物性工学講座ならびに高分子化学専攻高分子物性講座(基礎物理化学分野)を担当された。平成7年停年退官され、京都大学名誉教授の称号を受けられた。退官後引き続いて8年間倉敷芸術科学大学教授を務められた。

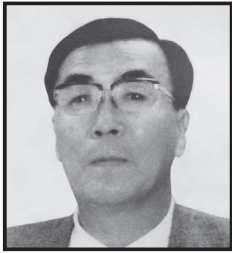
先生は45年にわたり、液体・溶液の物性と微視的構造および動的性質に関する基礎研究の分野で多くの業績を挙げられた。特に水溶液の物性に関する実

験的研究、アルコール類の混合の過剰体積や熱測定、自由エネルギーの評価を通じて、疎水性基を有する化合物の水和が、親水基の存在にも拘らず疎水性水和と呼ばれる現象によって支配されていることを初めて示した。これらの研究は、アルコール類やアミン類の疎水性を熱力学的測定から研究したものとしては、先駆的な研究であり、国内外で数多く引用されている。さらに、拡散係数の測定と相関、推算に関する研究、モデル流体の計算機シミュレーションに関する研究、非電解質水溶液の計算機シミュレーションによる研究、超臨界流体の理論的研究にも尽力された。

これらの研究成果は多くの学術論文として発表された。また、総説、解説等も多数執筆され、主な著書としては「溶解度の理論と計算」がある。

(大学院工学研究科)

渋谷 巖 名誉教授



渋谷 巖先生は、8月1日逝去された。享年75。

先生は、昭和28年九州大学理学部物理学科を卒業、同29年4月同大学大学院(理学部・旧制)に進学、物性理論を専攻し、同32年9月まで在籍、同月ペンシルバニア州立大学物理学教室助手、同35年11月東京大学物性研究所助手、同38年5月京都大学原子炉実験所助教授を経て、同54年2月同実験所教授に就任し、低速中性子物理学研究部門を担当された。平成6年に停年退官され、京都大学名誉教授の称号を受けられた。この間、平成3年4月から同6年3月まで、同実験所附属原子炉応用センター長を務められ、大学の管理運営に貢献された。

先生は、永年にわたってX線、中性子線を用いた

散乱現象を実験手段として、強誘電体結晶のマイクロ構造の解明とその構造相転移に関する実験的および理論的研究に取り組み、強誘電体相転移現象における臨界散乱の研究において、誘電体研究の比較的初期の時代にX線散乱法により相転移現象の“ゆらぎ”に基づく臨界散乱を強誘電体結晶、硫酸グリシンおよび亜硝酸ソーダの両物質について世界で最初に測定に成功するなど、我が国の中性子科学分野および固体物理学分野の発展に大いに貢献された。また、低速中性子物理学研究部門を担当されてからは、中性子回折およびX線回折による固体・液体の構造的な解析等低速中性子物理学および中性子散乱に関する実験研究の教育と指導に貢献され、X線小角散乱・単結晶自動回折装置の開発、機器の改良等に尽力し、この研究分野の飛躍的進展に貢献された。

(原子炉実験所)

亀井 豊永 理学研究科助手



亀井豊永先生は、9月3日逝去された。享年58。

先生は、昭和46年京都大学理学部を卒業後、同48年同大学大学院理学研究科修士課程を修了、同52年2月まで、同研究科博士課程に在籍された。昭和52年3月から2年間、米国海洋大気局(NOAA)に研究員として滞した後、京都大学理学部非常勤講師を経て、平成3年2月、京都大学理学部助手に就任された。先生は、地上および人工衛星による地磁気観測データの解析的研究に取り組むとともに、平成2年から開始した太陽地球系エネルギー国際協同研究計画(STEP)では、データ交換のための計算機ネットワーク構築に重要な役割を果たされた。

先生は、この間、理学研究科附属地磁気世界資料解析センターの一員として、地磁気データの取

集・提供にも多大な貢献をされた。特に技術的に困難であったロシア北極海沿岸部にある地磁気観測所からのデータ転送とそれを用いたAE(Auroral Electrojet)指数の準リアルタイム算出の実現や、中・低緯度の地磁気観測所から収集したデータを基に算出され、磁気嵐の指数として用いられるDst指数の準リアルタイム算出の実現に中心的役割を果たされた。これらの貢献に対し、国際地球電磁気学・超高層物理学協会(IAGA)は、本年7月、学界に対し長期間重要な貢献をした研究者・技術者に与えられる“IGA's Long Service Medal”を先生に授与することを決定した。授賞式は来年7月イタリアのペルージアで開催される同総会で行われることになっているが、受賞者本人が出席できなくなったことはまことに残念である。

(大学院理学研究科)

飯沼 馨 名誉教授



飯沼 馨先生は、9月6日逝去された。享年90。

先生は、昭和14年京都帝国大学文学部を卒業後、大阪大谷女子専門学校教授(兼大谷高等女学校教諭)、京都市立松原中学校教諭、大阪経済専門学校教授、大阪経済大学助教授を歴任された。昭和25年京都大学助教授(吉田分校)を経て、同38年京都大学教養部助教授、同39年に同教授に就任され、以後同55年の停年退官まで長く教養部および文学部で英語、英文学の授業を担当された。昭和55年に停年退官され、京都大学名誉教授の称号を受けられた。

先生の研究分野は近・現代にわたるイギリス散文学で、十八世紀のサミュエル・リチャードソン、

ヘンリー・フィールディングから二十世紀のT・E・ロレンス、ジョージ・オーウェル、サマセット・モームに至るまで多岐にわたる。これらの作家についての論文を多数発表されたほか、論集の編集、さらには翻訳も数多く手がけられ、その一部は現代アメリカ文学にも及んでいる。主著には『作家と政治—英国三十年代を中心として』(編著・研究社、昭和33年)、『文学の中の人間』(共著・雄渾社、昭和42年)、主訳書には『芸術論集』(ハーバート・リード著、共訳、みすず書房、昭和32年)、評伝『コムトン・バーネット』(P・H・ジョンソン著、研究社、昭和46年)、『莓つみの季節・馬盗人』(E・コールドウェル著、共訳、英宝社、昭和57年)などがある。

(大学院人間・環境学研究科)

田中 孝 名誉教授



田中 孝先生は、9月10日逝去された。享年80。

先生は、昭和23年京都大学農学部農林工学科を卒業、愛媛県立農林専門学校講師、愛媛県立松山農科大学助手、滋賀県立農業短期大学助手、同講師、同助教授、京都大学農学部助教授、鳥取大学農学部教授を経て、昭和51年京都大学農学部教授として農業工学科農用原動機学講座を担当された。平成元年に停年退官され、京都大学名誉教授の称号を受けられた。本学退官後は、平成元年4月から同8年3月まで京都文化短期大学教授を務められた。

先生は、農業機械学、中でも湿田における動力耕うん機の走行性能向上に関する実験的ならびに理論

的研究において優れた業績をあげられ、昭和36年に農業機械学会賞を受賞されている。また土と機械の力学を扱うテラメカニックスの重要性を認識され、多くの後進を育成しその発展に貢献された。先生の見識は国際的にも評価が高く、日中農業機械学会学術交流、国際学会共催、講義へと発展し、吉林工業大学名誉教授称号を授与されている。

また、農業機械学会評議員、理事、常任理事、同学会関西支部長、自ら設立されたテラメカニックス研究会初代会長、国際地盤車両系学会(ISTVS)日本代表理事の要職を歴任され、農業機械学会名誉会員、ISTVS名誉会員に選出されている。

(大学院農学研究科)

日誌 2006.8.1 ~ 8.31

- | | | | |
|------|-----------------------|-----|---------------|
| 8月4日 | 情報環境整備委員会 | 24日 | 全学共通教育システム委員会 |
| ↳ | 総長ランチミーティング(基礎物理学研究所) | 29日 | 役員会 |
| ↳ | 財務委員会 | ↳ | 企画委員会 |
| 10日 | オープンキャンパス(11日まで) | | |

お知らせ

生態学研究センター・オープンキャンパス

大学院理学研究科の協力講座である生態学研究センターは、理学研究科の生物科学専攻、生態科学Ⅰおよび生態科学Ⅱの2つの分科から大学院生を受け入れ、生態学の研究教育活動、人材育成に積極的に取り組んでいます。研究分野は、水域生態学・熱帯生態学・生物間相互作用・理論生態学・分子解析生態学・保全生態学です。このたび、大学院生(修士または博士課程)として、生態学研究センターにおいて生態学の研究の可能性を考慮している方を対象に、以下の日程でオープンキャンパスを開催します。当日は研究内容についての紹介、研究施設の見学会などを行います。さらに詳しく知りたい方には、研究室を訪問して頂き、教員、研究員スタッフや在学生と直接話していただくことができます。関心のある方は気軽にご参加ください。

研究スタッフなどの詳しい情報については、ホームページをご覧ください。

<http://www.ecology.kyoto-u.ac.jp/>

1. 日 時：11月11日(土) 10:00~16:00
2. 場 所：京都大学生態学研究センター(大津市平野2丁目509-3)
3. 問い合わせ先：理論生態学分野 山村則男(E-mail: yamamura@ecology.kyoto-u.ac.jp)
4. 申 込 方 法：氏名・所属・学年・住所・電話番号・メールアドレスを記入のうえ10月31日(火)までにお申し込みください。希望研究分野があれば書いてください。
〒520-2113 大津市平野2丁目509-3
京都大学生態学研究センター 川田 恭子
E-mail: kawata@ecology.kyoto-u.ac.jp FAX: 077-549-8257

フィールド科学教育研究センター上賀茂試験地 「秋の一般公開自然観察会」

1. 日 時：11月18日(土) 10:00~15:00 (小雨決行)
2. 場 所：フィールド科学教育研究センター上賀茂試験地(京都市北区上賀茂本山2)
3. 定 員：30人
4. 参 加 費：無料
5. 申 込 方 法：氏名・年齢・性別・住所・電話番号を記入のうえ、往復はがきまたは電子メールのいずれかでお申し込みください。なお、1人1通の申し込みとします。ただし、家族に限っては、複数名での申し込みが可能です。応募者全員の必要事項を必ず明記してください。
6. 申 込 締 切：11月2日(木)当日消印有効。申込みが定員を超えた場合は、抽選とさせていただきます。抽選結果は締切翌週にお知らせします。
7. 問い合わせ先：フィールド科学教育研究センター上賀茂試験地
〒603-8047 京都市北区上賀茂本山2
TEL：075-781-2404 E-mail：kamigamo@kais.kyoto-u.ac.jp
詳細はホームページをご覧ください。
<http://fserc.kais.kyoto-u.ac.jp/kami/event.html>

農学研究科シンポジウム (No Border Agric.) 多様性の中の統一を目指して

第5回

1. 日 時：11月30日(木) 15:30~17:40
2. 会 場：農学部総合館W-100講義室(京都大学北部構内)
3. 演題と講師：酵素を用いて病気を測る－より高感度に、より迅速に－
食品生物科学専攻 教授 井上 國世
地球を食べる超好熱菌 応用生物科学専攻 教授 左子 芳彦
乳酸菌の糖分解酵素の科学－糖の資化から腸管接着まで－
生命科学研究所 教授 山本 憲二

第6回

1. 日 時：12月22日(金) 15:30~17:40
2. 会 場：農学部総合館W-100講義室(京都大学北部構内)
3. 演題と講師：作物のルーツを探る－中国四川省東義河溪谷を歩いて－
応用生物科学専攻 教授 大西 近江
農業技術に『スペードのA』はあるか？－半乾燥地畑作にみる常識のウソとホント－
地域環境科学専攻 教授 小崎 隆
陸と海の間の変遷－有明海を豊かにする河口域生態系とその異変－
フィールド科学教育研究センター 教授 田中 克

来聴歓迎，入場無料，事前申し込み不要

問い合わせ先：京都大学大学院農学研究科 研究協力掛

TEL：075-753-6412 FAX：075-753-6005

主 催：京都大学大学院農学研究科

共 催：京都大学農学部四明会

公開講座

平成18年度エネルギー科学研究科公開講座 —わたしたちの生活と，生物や光の応用を考える—

1. 日 時：11月18日(土) 13：00～17：00
2. 場 所：京都大学工学部2号館201講義室
3. 演題と講師：「ライフサイクル思考とは何か? —人間活動の環境影響評価—」
エネルギー社会・環境科学専攻 助教授 東野 達
「生物がエネルギーを利用するためのしかけを考える」
エネルギー基礎科学専攻 教授 森井 孝
「光の時代を開く新量子放射源 —自由電子レーザー—」
エネルギー応用科学専攻 教授 山崎 鉄夫
「講師を囲んで」(来聴者と懇談)
4. 受講料：無料
5. 定 員：100人(先着順に受け付け，定員になり次第，締め切ります。)
6. 問い合わせ先：京都大学大学院エネルギー科学研究科 学術・管理掛
TEL：075-753-4744 E-mail：kenji.harada@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
詳細はエネルギー科学研究科ホームページをご覧ください。
<http://www.energy.kyoto-u.ac.jp/kokai/>

玉城嘉十郎教授記念公開学術講演会(第45回) —地球惑星科学の華：極域の科学—

1. 日 時：11月29日(水) 15：00～17：00
2. 場 所：京都大学理学部2号館第1講義室(1階120号室)(市バス「京大農学部前」下車北側)
3. 演題と講師：「オーロラ：宇宙天気の指標」 名古屋大学太陽地球環境研究所 教授 上出 洋介
「南極オゾンホールのかげ」 東京大学大学院理学系研究科 教授 佐藤 薫
4. 問い合わせ先：〒606-8502 京都市左京区北白川追分町 京都大学大学院理学研究科 総務掛
TEL：075-753-3600 FAX：075-753-3645
E-mail：somu@rigaku.kyoto-u.ac.jp
詳細は理学研究科ホームページをご覧ください。
<http://www.rigaku.kyoto-u.ac.jp/modules/tinycontent/>
主 催：京都大学理学部

21世紀COEプログラム「活地球圏の変動解明—アジア・オセアニアから世界への発信—」(KAGI 21) 公開講演会『地球の気候の移り変わり』

KAGI 21の研究教育成果をまとめる第4回KAGI 21国際シンポジウムの一環として、地球科学分野で世界的な研究者のお二人をお招きして行うものです。一般の方々、とくに大学生、高校生を対象により多くの方々が地球科学をより身近に感じていただけるよい機会にしたいと思っています。多数のご来場をお待ちしています。

1. 日 時：12月2日(土) 14:00-16:30 (開場13:00)

2. 場 所：時計台記念館 国際交流ホール

3. 演題と講師：「温暖化がもたらす世界の気候変動」

プリンストン大学客員共同研究員・海洋研究開発機構顧問 真鍋 淑郎

「現在の地球の気候の成立」

同志社大学工学部教授 増田富士雄

4. 対 象：大学生，高校生，一般社会人

5. 参 加 費：無料

6. 定 員：約200人

7. 申 込 方 法：事前に下記のCOE事務局まで(氏名，職業，差し支えなければ連絡先(変更が生じたときの連絡のため))をご記入の上，メールまたはFAXでご連絡ください。なお，当日のご参加も可能です。

申 込 先：KAGI事務局

E-mail：kagi21@kugi.kyoto-u.ac.jp FAX：075-753-4299

メールの場合表題を「KAGI 特別講演 事前申し込み」としてください。

KAGI 21の研究教育活動についてはホームページをご覧ください。

<http://kagi.coe21.kyoto-u.ac.jp/jp/index.html>

編集後記

京都大学総合博物館では、湯川秀樹博士・朝永振一郎博士の生誕百年を記念した企画展が開催され好評です。

広報は、大学と社会とのコミュニケーションを円滑にする総合窓口であり、京都大学の様々な動きを社会に紹介し、事業を円滑に進めるための環境を整備するところと云えます。

広報に関するご意見は、kohho52@mail.adm.kyoto-u.ac.jpにお寄せください。

